助教

永野 英美

■ 学歴

1. 2024年 福岡看護大学大学院 看護学研究科看護学専攻修士課程 修了

■ 学位

1. 2024年 修士(看護学)

■ 研究分野

1. 小児看護学
- 2.
- 3.

■ 研究キーワード

1. 医療的ケア児
2. 訪問看護師
3. ポジティブ心理学

■ 研究課題

1. 訪問看護師による医療的ケア児の看護支援
2. NICU・GCU 看護師の支援

■ 担当授業科目

1. 小児看護方法論(後期)(看護学科) 必須
2. 小児看護学演習(前期)(看護学科) 必須
3. 小児看護学実習(後期)(看護学科) 必須

■ 授業を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【小児看護方法論】 急性期にある子どもの看護について講義した。講義では、急性期、手術を受ける子どもと家族について、またその看護について理解することを目的に、学生がイメージしやすいよう動画や写真を用い講義を展開した。さらに、臨床（NICU、PICU、小児病棟）での経験を多く取り入れ看護の実際を語ることで、学生の興味や学修意欲を増加させた。
2.	授業科目名【小児看護学演習】 講師の指導の下、看護展開では、ペーパーペイシエントを用いたアセスメントの中で、これまで学修した内容をつなげながら思考を整理できるよう支援した。また、体重、身長、頭囲および胸囲測定の実演を担当し、正確に測定できるよう、測定ポイントについて写真を掲示した。そして、子どもの安全・安楽に配慮し実践できるよう、臨床場面を想起

	できるよう具体的に説明を行い実践し、子どもの基本的援助技術を用いるための知識、技術、態度の習得につなげた。
3.	授業科目名【小児看護学実習】 3施設での実習指導を行った。学生が、各施設の特徴を捉え、患児の生活背景を把握し、治療経過や退院を見据えた看護支援の方向性を捉えることが出来るよう導き、学生の思考を整理するよう助言した。また、ケア実践やリフレクションを通し学生の看護感を養うよう関わった。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等(任期)
1.	2007年～現在に至る	日本看護協会	会員
2.	2007年～現在に至る	福岡県看護協会	会員
3.	2021年～現在に至る	九州・沖縄小児看護教育研究会	会員
4.	2023年～現在に至る	日本看護科学学会	会員
5.	2023年～現在に至る	日本小児看護学会	会員

■ 研究業績等に関する事項(2024年度)

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌 等又は発表学会 等の名称	概 要
(著書)					
1.					
2.					
3.					
(学術論文)					
1.	2025年3月	医療的ケア児を支援する専門職者の教育に関する文献検討	共著	西南女学院大学紀要 Vol29,2025	医療的ケア児を支援する専門職者の教育に関する文献を検討し、現状と看護教育における課題を明らかにした。 総102項,P57-66 <u>永野英美</u> 、藤本奈緒子、樋口由貴子
2.	2025年3月	大学初年次生における抑うつ状態と主観的幸福感との間の関連性	共著	帝京科学大学紀要 Vol21,2025	大学初年次生の抑うつ傾向と主観的幸福感との間の関連性について、抑うつ傾向の高低に関わらず主観的幸福感が保たれることを明らかにした。 <u>谷佳成恵</u> 、津田彰、石橋香津代、 <u>永野英美</u>
3.					
(翻訳)					
1.					

2.					
3.					
(学会発表)					
1.	2024 年 9 月	Sustainable Development Psychological Inventory と Stress Mindset との間の関連性	共同発表	第 88 回日本心理学会(於 熊本)	SDGs の行動準備性と向環境的行動との間の関連性について、行動準備性の高い目標ほど実行可能な向環境的行動が多いことを明らかにし、その成果を発表した。 谷佳成恵、津田彰、伏島あゆみ、三原健吾、田中芳幸、岡村尚昌、矢島潤平、堀内聡、石橋香津代、 <u>永野英美</u>
2.	2024 年 11 月	糖尿病患者の健康行動に及ぼすポジティブ心理学的介入効果： テキストマイニングによるシステムティック・メタレビュー	共同発表	第 37 回日本健康心理学会(於 大分)	システムティック・メタレビューと、量的研究の限界を補完する質的研究(テキストマイニング)によって、糖尿病患者の健康行動に及ぼすポジティブ心理学介入効果について明らかにし、その成果を発表した。 <u>石橋香津代</u> 、津田彰、谷佳成恵、 <u>永野英美</u> 、堀内聡
3.	2024 年 12 月	Analysis of the Difficulties Faced by Nurses in Preventive Care for Children with Medical Complexity Using Text Mining: Focusing on Medical Device-Related Pressure Ulcers	共同発表	CONFERENCE SUTH The 3rd National and International Academic Conference of 2024 "Co-creation for Sustainable Development in Good Health and Well-Being"(Thailand)	テキストマイニングによって医療的ケア児の医療関連機器褥瘡予防に関する訪問看護師の困難について明らかにしその成果を発表した。 <u>Emi Nagano</u> , Nami Tanaka, Kanae Tani, Katuyo Ishibashi, and Akira Tsuda

4.	2024年12月	The relationship between a stress-is-enhancing mindset and a stress-is-debilitating mindset	共同発表	CONFERENCE SUTH The 3rd National and International Academic Conference of 2024 "Co-creation for Sustainable Development in Good Health and Well-Being"(Thailand)	ストレスマインドセットについて、ストレス有用マインドセットとストレス有害マインドセットとの間の関連性から、日本独自の弁証法的ストレスマインドセットの存在が示唆され、その成果を発表した。 Kanae Tani, Akira Tsuda, Katsuyo Ishibashi, and <u>Emi Nagano</u>
----	----------	---	------	--	---

(その他)

1.					
2.					
3.					

■ 外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)

(1) 共同研究					
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)	
1.	プラダーウィリ症候群児の養育者への睡眠時無呼吸に対する療養支援プログラムの構築	文部科学省基盤研究(C) 2024-2026	(○飯野英親、得能智武、中村加奈子、青野広子) <u>永野英美</u>	4,883,000	
2.	気になる子ども・神経発達症児と親の親子関係再構築の要因 - PCIT の実施から -	文部科学省基盤研究(C) 2024-2027	(○青野広子、鳥巢浩幸、笠原亜希子、岡田賢司、飯野英親) <u>永野英美</u>	4,283,000	
3.					

(2) 個人研究					
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考	
1.	NICU・GCU 入院中の児の医療関連機器圧迫創傷予防に向けた看護実践に関する実態調査	日本看護科学学会 2024年度 挑戦的課題研究助成(対象:大学院生・ポストド	499,000		

		クター)		
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023年12月	第43回日本看護科学学会学術集会(実行委員として会場アナウンス担当)	
2.	2025年2月	佐賀県委託事業令和6年度助産師再就業支援事業 (乳児の発達課題とケア(~4か月)を講師として担当した)	
3.			

■ 学内における活動等(役職、委員、学生支援など)

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2024年4月~2025年3月	1年生アドバイザー	
2.	2025年4月~現在に至る	2年生アドバイザー	
3.			